

アステックペイントは住宅向け遮熱塗料の2019年メーカーシェア1位を獲得

住宅向け遮熱塗料の トップランナー アステックペイント・ジャパン

「超低汚染リファインシリーズ」や「シリコンREVO1000」「スーパーシャネツサーモ」など遮熱機能を持たせた建築用塗料の年間販売額は国内トップクラスに躍り出た。中でも、遮熱塗料製品群の先頭を走る「超低汚染リファインシリーズ」は、同社を建築用塗料の有力メーカーへと押し上げた立役者だ。

2015年に発売した「超低汚染リファインSi-IR」は、当時の汎用シリコン系塗料と高額なフッ素樹脂系塗料との中間ゾーンを突く製品として投入。シリコン系塗料のレッドオーシャンから抜け出し、かつ自宅の塗り替えを行う施主に説得力の高い塗料として全国の塗装店に高く支持された。

水性2液架橋タイプの同品は、塗膜の緻密性と親水性により『建物をキレイにしたい』という施主の根源的な欲求を満たし、そのキレイな状態をフッ素塗料同等の高耐候性技術によって長期間維持。塗料に求められる条件を高レベルで両立し、汎用シリコン塗料を超える立ち位置を獲得した。そこに、特殊遮熱顔料による遮熱機能を付与、市場が求める3つの性能に高い次元で応えたことでヒットにつながった。

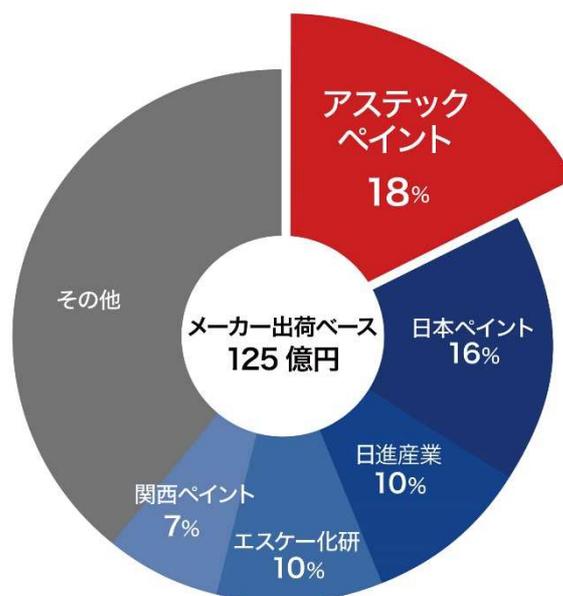
加えて、「外壁こそ遮熱」という販売戦略を掲げ、遮熱塗料の対象を屋根から壁へと拡大したことも躍進の要因。

低層住宅の外壁の大半を占める窯業

系サイディング材は温度変化による膨張収縮を繰り返し、それが基材劣化の要因にもなる。外壁に遮熱塗装を施すことでそうした負荷を軽減し、住宅そのものの寿命を延ばすという切り口が説得力を持った。

外壁用の「超低汚染リファインSi-IR1000」及び屋根用の「同500IR」を皮切りに、2017年には無機成分配合フッ素樹脂系の「同1000MF-IR」(外壁用)及び「同500MF-IR」をラインアップ。「無機フッ素系のMFも年率150%で伸びている」(担当者)と、塗装店の高額受注の切り札になっていることが窺える。

更に今春には超低汚染リファインシリーズとしてシーリング材への追従性を格段に高めた弾性タイプの発売を予定。住宅塗り替え市場へ向けて万全の製品体制を整える。



ペイント&コーティングジャーナル2020.03.25号より